

シリーズ
わたしの作品

今回から、第四十回鳥取市民美術展覧会（七月一日〜八日、鳥取県立博物館）で入賞した作品を紹介していきます。

この美術展には、県東部から、日本画、書道、工芸、彫刻、洋画、版画、デザイン、写真の八部門に三百九十八点の応募があり、市展覧に二十二点、協賛団体賞に八点が選ばれました。

今回は、技術レベルの向上と熱意がうかがえる作品が多く、また部門によっては、高校生などの若い年齢層からの出品が多数ありました。

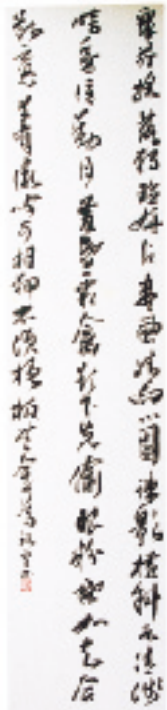


市民美術展のようす



梅尾 裕雪さん

【書道】市展賞
林逋の詩



書道は運筆のリズムと白黒のバランスが大切で、特に漢詩は、その作品の要となる文字があるかどうかのポイントです。この作品の場合は二行目の最初の「暗香浮動月」ですが、この字と周囲の字とのバランスに苦労しました。これから、我流にならず、古典に習って、躍動感のある作品を作っていきたいです。



中江 美千代さん

【工芸】市展賞
縄文のオードリリー



入選するだけでいいと思っていたのに、いきなり市展賞で本当にびっくりしています。藍染は五年くらい教室に通いながらやっています。中央部の模様をいかにはつきり出すが大変でした。作品名は、完成した作品を見て、夫が直感で決めました。これからも、地味だけれどコツコツとマイペースで作品を作っていきたいです。



【洋画】市展賞
想い



小寺 政恵さん

学生の頃から油絵をやっていて、今回は二回目の入賞です。私は特に、人間の形の美しさを表現する裸婦が好きで、この作品は構想から一年がかりで完成させました。これからも自分流に人間の内面を表現していきたいと思います。目標は、独立美術展に入選することです。